

ブルキナファソ国 ゴマ生産支援プロジェクト ニュースレター



ブルキナファソ国 農業・水利省

独立行政法人 国際協力機構 

ハイライト:
ブルキナファソでゴマプラットフォームが開催され、今後のゴマ生産改善、輸出振興に向けて議論。

栽培試験を開始。

ルワンダのJICAプロジェクトへFFSの事例を学ぶ研修旅行を実施。

中核農家向けの実践研修を引き続き実施。

目次:

ブルキナファソ国内でのゴマプラットフォームの実施 1

栽培試験 2

ルワンダのFFSの事例に学ぶ 3

寄稿「ルワンダへの研修旅行に参加して」 3

中核農家への実践研修とモニタリ 4

ブルキナファソ国内でのゴマプラットフォームの実施



写真左：プラットフォーム会場の様子。

写真上：開会の挨拶の様子。左から小林JICA所長、農業省次官、農業省農村経済振興総局総局長。

8月1日、ブルキナファソのゴマ生産にかかわる政府関係者、生産者、輸出業者、JICAプロジェクト関係者等のステークホルダーが一堂に会しブルキナ国内におけるゴマプラットフォームが首都ワガドゥグで開催され47人の関係者が参加しました。同会議の主要なテーマは、6月に実施された本邦研修と本邦ゴマプラットフォームで得られた知見、成果および課題をブルキナファソにおけるゴマ関係者と共有し、今後の同国のゴマ生産改善や輸出の振興に役立てようとするものです。当日は本邦研修に参加したブルキナファソ高官および民間代表から報告・提案がなされ、参加者からの質疑も交えて議論しました。また、最後にプロジェクトから中垣総括が総合的観点からコメントしました。同会議での主な提案は右表の通りです。

課題	提案
残留農薬(イミダクロプリド)	<ul style="list-style-type: none"> 残留農薬の発生源(使用場所、使用者)を特定するため、トレーサビリティのシステムを強化。 日本の残留農薬の基準値を共有。 残留農薬の課題を農民にも情報提供。 ゴマの品質に関しては輸出振興庁とブルキナファソ規格・度量衡・品質機関とも協議すべき。
ゴマの内容証明書	<ul style="list-style-type: none"> 政府が輸出時に品質を保証する内容証明書を出す仕組み作りを進める。この案は関係大臣に出しており、署名待ちの状況(1年待っている)であるため、そのプロセスをフォロー。 輸出時の内容証明書だけでなく、生産時の内容証明書も検討していくべき。
ゴマ輸出業者	<ul style="list-style-type: none"> 輸出業者を特定。 輸出業者組合(ANACES-B)を強化。 輸出業者は認可登録制ではなく、誰でも(外国人でも)ゴマ輸出業を営めるため、一定の基準を設けて許可制とすべき。
政府の役割	<ul style="list-style-type: none"> ステークホルダーを組織化すべき。現状、政府によるモニタリングがなく、政府はゴマ生産の組織やグループを信頼していない。



写真左：フローアからの質問に答える中垣総括。



写真右：メディアの取材に答える、農業経済振興総局総局長と中垣総括。

栽培試験

プロジェクトでは、7月中旬からブルキナファソ国内全7カ所で栽培試験を開始しました。開始した栽培試験は大きく分けると、①栽培技術開発と、②改良品種開発、の2つがあります。これら栽培試験について簡単にご紹介します。

①栽培技術開発

プロジェクトでは施肥の推奨、7月播種の推奨、優良品種の使用を収量向上のキーワードと位置付けています。化学肥料はたくさん使えば多くの収穫が望めますが、ブルキナファソの小規模農家にとって肥料購入は高い初期投資となります。また、ブルキナファソではワタ、トウモロコシ、ソルガム栽培が優先される傾向にあり、ゴマ栽培への化学肥料の投入量はあまり高くありません。実際に昨年2015年のプロジェクト対象地域で実施した小規模な聞き取り調査では、化学肥料を毎年購入していると答えた一般農家は86%であったのに対し、その化学肥料をゴマ栽培に使用していると答えた一般農家は17%でしかありませんでした。このような実態を考慮し、プロジェクトでは単に最大収量をもたらす施肥技術ではなく、効率的でかつ経済的な施肥技術を目指して技術開発を行っています。播種日の検討でも同様に、単にゴマの収量だけを観察するのではなく、他の競合作物との播種順番や収入性を踏まえて、農家収入が最も安定する技術開発を目指して試験を実施しています。



写真：施肥試験



写真：播種日試験（左から7月中旬、7月下旬、8月上旬）

②改良品種開発

ブルキナファソのゴマ登録品種は全部で5品種ありますが、政府公認の認証種子として市場で流通しているのは1品種のみです。国内の多様な気候や近年の気候変動を考慮すると、1品種に依存するのは作物生産の安定性からみて好ましくなく、各地域に適したいくつかの認証種子が流通されることが期待されます。また、①で前述した調査によると、圃場でゴマ認証種子を栽培していた農家は25%であり、多くの一般農家が認証種子を使用していないことが分かりました。そこでプロジェクトでは品種の選定段階から農家に参加してもらい、農家の好む品種を選別する参加型選抜の要素を取り入れています。一方で、2014年のブルキナファソのゴマ輸出額全体のうち31.9%がシンガポール、19.2%が中国、19.1%が日本と、その多くがアジア各国に輸出されていますので、アジアの消費国の嗜好性も重要な品種選定の条件としています。このようにプロジェクトでは、ブルキナファソ農家が好み、日本をはじめアジアの消費者が好む、ブルキナファソとアジアの橋渡しとなるような品種を目指し、試験を行っています。（土方野分 長期専門家）



写真：品種選抜試験

ルワンダのFFS^(※)の事例に学ぶ

* FFS=Farmer Field School (農民圃場の学校) の意味。

8月15日～21日にかけて、普及研修に関わる3名の農業省職員（ZOUNGRANA氏 [植防局]、SANOU氏 [ブクル・ドゥ・ムフーン州局]、MALO氏 [オーバッサン州局]）と菊田長期専門家が、FFSの好事例から学んで技術交換するために、ルワンダのJICA小規模農家市場志向型農業プロジェクトを訪問しました。同プロジェクトのFFSは成功事例として知られており、ゴマ分野のFFSではないものの、FFSの実施面（講師は外部でなくて地元出身者、カリキュラムは技術面ばかりでなく社会生活面やゲームを取り入れる、研修は現地語で行う、etc.）でとても参考になり、今後の当プロジェクトにも活かしていきたいと思えます。



写真左：園芸作物の中核農家FFS圃場への訪問の様子

写真右：普及を担う省庁の局長と普及員との意見交換の様子



寄稿「ルワンダでの研修旅行に参加して」

農業エンジニア, PRPS-BF オーバッサン州カウンターパート

マロ・テオフィル (MALO Théophile)



ブルキナファソ国ゴマ生産支援プロジェクト (PRPS-BF) はJICAを通じたブルキナファソと日本政府間の技術協力プロジェクトである。本プロジェクトは2014年10月から実施され対象州はブクル・ドゥ・ムフーン州とオーバッサン州である。目的はブルキナ産ゴマの生産および輸出の増加に貢献する事である。プロジェクトの活動においてJICAはフォーカルポイントに対しルワンダでの技術交換を目的とした研修旅行を開催した。

研修旅行の目的は参加者に幾つかの分野での経験を共有させる事である。したがって、今回のルワンダでの旅行はFFSの実施に関する経験の交換・共有を目的としていた。

だが、自分にとって今回のルワンダ研修旅行は初の国外旅行でもあり、ブルキナファソ以外の国を実際に見聞きする機会でもあった。したがって、この旅行中はとても嬉しかった。

最も重要なのは自分と同じ分野に従事する他の国の技術者たちと交流する事ができた事であり、いくつかの農業生産サイトを訪問する事で、ルワンダの現地事情にわずかではあるが触れる事ができた事である。この交流と訪問により、将来自分の経歴に役立つ知識を得る事ができた。実際、取水路から分水路を造るシンプルな技術を学ぶ事ができたし、FFSのやり方についても学ぶ事ができたし、ルワンダにおける普及戦略について学ぶ事ができた。

これらの知識は上司に対する具体的な提案と、FFS実施を改善し、ブルキナの農業生産を向上するための農業普及員と農民の研修を通じて還元したいと思う。

今回とてもいい経験を積ませていただいたJICAに感謝するとともに、ブルキナファソ国ゴマ生産支援プロジェクト (PRPS-BF) に良い風が吹くことをお祈りする。



写真：ルワンダで「小規模農家市場志向型農業プロジェクト」の専門家・スタッフと。後列の左から3番目がMALO氏。

中核農家への実践研修とモニタリング

中核農家への実践研修=FFS・FBS^(※)・種子生産を継続しています。8月2日に7月に研修用の圃場を再播種したBM州で2回目の実践研修(除草・中耕、施肥、病虫害観察などの演習)を再び実施し、10日にはHB州で3回目の実践研修(追肥、農薬散布デモなど)を、さらに25日には、BM州でも3回目の実践研修を実施しました。圃場の生育は順調で、今後は10月に収穫と収穫後処理の研修を実施予定です。

また、研修を受けた中核農家がファシリテーターとなって各自の村で他の農家に対してFFSとFBSを実施することを目的としているため、研修の実施状況をモニタリングしながらフォローしています。

* それぞれ、FFS=Farmer Field School(農民圃場の学校)、FBS=Farmer Business School(農民経営学校)の意味。



写真：コーラの王冠を用いて株元に施肥。
(8/2、BM州)



写真：参加者からボランティアを募り農薬防除キットを身につけさせての使い方指導。
(8/2、BM州)



写真：種子生産圃場における除草演習の様子。
(8/10、HB州)



写真：中耕演習の様子。
(8/10、HB州)



写真：病虫害の観察演習。
(8/25、BM州)



写真：各グループによる観察結果発表。
(8/25、BM州)

ブルキナファソ国ゴマ生産支援プロジェクト

プロジェクト事務所

03 BP 7123 Ouagadougou 03, Burkina Faso

Tel: +226-67-37-59-80

Email: projetsesame@yahoo.fr

<http://www.jica.go.jp/project/burkinafaso/005/index.html>

編集室より

6月の本邦研修を受け、8月はブルキナファソ国内で初のプラットフォームが開催されました。ゴマに関わる政府関係者や業者たちが一同に会する機会となりました。プロジェクトでも今後の進展をサポートしていきます。また、栽培試験が始まり、農家への実践研修も回を重ねています。今年次の活動もいよいよ中盤に差し掛かってきました。